

2015年12月27日(日)朝10:10～
12月第4年末共同主日礼拝式説教

降誕節第1、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**愛**において**歩く**ことが、
神の掟である

聖書：Ⅱヨハネ 1章4～6節

＜口語訳＞

新約聖書382頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節

＜新共同訳＞

新約聖書448頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節

＜新改訳第3版＞

新約聖書472頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節＜塚本訳＞

新約聖書769頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **Ⅱヨハネ書も、グノーシス派等一般に総括的に表現されています人々の主イエス様の神性否定の教えと乱れた生活への警告書簡で、神のみことばそのものであることをヨハネ自身の実体験を通して、神の御子を喜び、あかしすることを求め、神の祝福を祈ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章1～3節は、父なる神と神の御子主イエス様からの真実の愛を受けとめ、生きる教会であってほしいとの使信を認めたものと、ヨハネは語ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章4～6節は、「兄弟愛」を神の教会への「神の掟・命令」であると、ヨハネは語っています。**
- ⇒ **「真理」を「真実な神から受けた愛」と、1～3節で、ヨハネは語っていましたが、この箇所でも、基本的には同じで、さらに強調しているのは、「真理のうちに歩んでいる」(4)と、「神の命令」に従って、「兄弟愛の生活」を実践しているかどうかを問うていることです。**
- ⇒ **ヨハネ福音書やⅠヨハネ書で見たように、神は、神の御子を世に派遣、十字架につけた。**

本論；

◇本日、Ⅱヨハネ書1章4～6節から主の使信に思い・心をとめます。

◆Ⅱヨハネ1章4節；ヨハネは、神の真理の中の歩んでいる人たちがいることを認めて、喜んでいきます。

◇4～6節；塚本訳◆互いに愛せよ

「1 わたしはあなたの子供たちの中に、わたし達が父から受けた掟どおりに、真理において歩いている者があるのを見て非常に喜んだ」と、ヨハネは語ります。

◇4節；わたし(ヨハネ)は、「あなたの子供たち(教会の人たち)」の中に、「わたし達が父から受けた掟」どおりに、「真理において歩いている者があるのを見て」、「非常に喜んだ」と、ヨハネは語ります。

⇒「心を尽くして神を愛し、自分を愛するように、隣人を愛せよ」は、神の御子、主イエスキリスト様が、弟子たちに与えた「神の掟・命令」です。

⇒神によって創造された人間が、今も共に生きて下さる神を愛し、心から服従することです。

- ⇒神によって創造された人間が、互いに赦し合うことです。
- ⇒この「**神の掟・命令**」は、神に神創造されたすべての人間への「**命令**」で、「この**命令**」に服従する人々は、「**神との交わり**」、すなわち、「**神の永遠のいのち**」を受けけるのです。
- ⇒この「**神の掟・命令**」に服従することを拒む人々は、「**神との交わり**」＝「**神の永遠のいのち**」に与れないのです。
- ⇒これが、「**神の真理**」で、時代を超えて、変わることのない事実だと、ヨハネは、**Ⅱヨハネ書 1章1～3節**で語っているのです。
- ⇒「**神の真理**」は、**神の愛**を知った人たち、**キリスト者・クリスチャン**と呼ばれる人々として例外ではないのです。
- ⇒「**兄弟愛**」に生きないで、口先だけの生活では、「**神の愛**」は、相手に伝わらないことを知るのです。
- ⇒ヨハネは、「**真理において歩いている者があるのを見て**」、「**非常に喜んだ**」のです。
- ⇒神は、「**恵み(ヘブル語ではヘセド)**」のお方で、**知性、感情、意志のすべてに寄り添われる**。

◆ Ⅱヨハネ1章5～6節 ;ヨハネは、神の愛において歩くことが、神の掟・命令そのものであると、語っています。

◇4～6節 ;塚本訳◆互いに愛せよ

「5 貴女(教会の人)よ、それで今、あなたに願う——これは新しい掟をあなたに書くのではない、(イエスが来られた)始めから、わたし達がもっているのであるが——互に愛しようではないか。

6 わたし達が神の掟に従って歩くこと、それが愛である。あなた達が始めから聞いたように、愛において歩くこと、それが掟である」と、ヨハネは語ります。

◇5～6節 ;「新しい掟」としてではなく、「(イエスが来られた)始めから、わたし達がもっている神の掟に従って歩くこと」が、「愛である」から「あなた達が始めから聞いた(命令)」が、「神の掟である」、「互に愛しよう」と、ヨハネは語ります。

⇒「神の掟に従って歩くこと」=「互に愛しよう」に集約して、神の教会の人たちに「勧告」しています(ヨハネのメッセージなのです)。

- ⇒ **6節** ; の神の「**掟** エントラス ἐντολάς」だけが複数形になっていますが、ヨハネは、「**神の掟に従って歩くこと**」の各自の「**歩み・生活**」があることを強調しているようで、**Ⅱヨハネ書の注解者マーシャル**が、「**神の掟**」の内容の広範さをさしているという立場ではない。
- ⇒「**神の掟**」は、「**互に愛しよう**」にヨハネによって、集約されたとしても、「**互に**」の状況は、違ってきますし、相手にとって、何が「**愛の行為である**」かは、異なっていて、一律ではありません。
- ⇒「**ヘセドの神**」が、自分の思い優先ではなく、「**神の掟・命令**」に服従できない弱く、脆い私たちの知性、感情、意志に寄り添って下さるように、「**神に寄り添ってもらった自分**」を愛するように、「**互に隣人として愛しよう**」との**先輩長老ヨハネ**の「**暖かい勧告のことば**」として聴きたいと願います。
- ⇒ヨハネ福音書**15章12節** ; 「**わたしがあなた達を愛したように、互に愛せよ。——これがわたしの掟である**」と**神の御子主イエス様**も、**十字架の死**をかけて語って下さったのです。

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **Ⅱヨハネ書**も、**グノーシス派**等一般に総括的に表現されています人々の**主イエス様の神性否定の教えと乱れた生活への警告書簡**で、**神のみことばそのもの**であることをヨハネ自身の**実体験**を通して、**神の御子を喜び、あかしすることを求め、神の祝福を祈ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章1～3節**は、**父なる神と神の御子主イエス様からの真実の愛を受けとめ、生きる教会であってほしいとの使信を認めたものと、ヨハネは語ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章4～6節**は、「**兄弟愛**」を**神の教会への「神の掟・命令」**であると、ヨハネは語っています。
- ⇒ **世への勝利は、神の御子キリストの勝利**です。
- ⇒ **「心を尽くして神を愛し」、「自分を愛するよう**
にあなたの隣人を愛する」が神の愛の掟。
- ⇒ **「神を愛する礼拝」**の中にあることが、「**兄弟を愛する**」ことの鍵で、**神は、「兄弟の相互愛」で、神の愛を表現、「現実化」が求められています。**
- ⇒ **「互に愛しよう」の勧告のことばを聴きたい。**